

エスカレータの片側空けは正しいマナー？考えてみませんか

さまざまなひとたちが安心安全に使えるエスカレータを

現在、エスカレータの利用にあたっては、歩いて上り下りするひとのために、右側や左側を空けることがマナーになっています。恐らくエスカレータを歩くのは急ぐためであったり、習慣であったり、運動不足を補う健康増進のためなのでしょう。

しかし、多くの人たちがエスカレータ歩行者の身体や荷物が当たったことや、歩行者自身もバランスをくずしそうになったことなどを経験されていることと思います。エスカレータは高齢の方、障害のある方、妊娠中のご婦人、小さな子どもたちなど、いろいろな人たちが利用する、みんなのための階段昇降機器です。実際、エスカレータで思わぬ大けがとなる事故も起こっています。エスカレータの片側空けマナーについて、みんなで考えてみませんか。

危険が内在するエスカレータという存在

JRでは、「事故防止のため、突然に停止した際のために、エスカレータ内では手すりを持って下さい」とアナウンスしています。エスカレータには、停電や故障などモータがストップした際の自動停止装置や、転倒事故などがあった時の場合の手動の非常停止スイッチもついています。急にエスカレータが止まると、エスカレータに乗っているひとたちは前のめりになり手すりを持っていないと転倒するおそれがあります。ひとりが転倒すると、その勢いで将棋倒しとなり、大事故になる危険もあり得るのです。先日、東京ビッグサイトの上りエスカレータが定員超過により突然逆走して、大勢の利用者が将棋倒し状態になるという事故が起こったことは、記憶に新しいところです。幸い、大事故にはならずに済んだのは、大半が若者であったためと専門家は見ています。安心して利用しているエスカレータですが、実はこうした危険が内在していることは忘れてはなりません。

東京だけでエスカレータ事故は1年間900件

日本エレベータ協会によると、03年1月から04年3月までの15カ月間で、東京消防庁管轄区域内で発生したエスカレータの事故件数は、出勤や事後報告があったものだけで、1014件（1年間の換算で811件）にのぼります。04年8月から同年12月までの4カ月間では313件発生しています（1年間の換算で939件）。

事故状況をみると、エスカレータ事故にあうのは、大半が高齢者です。人口10万人あたりの事故遭遇率では、0～4歳は8人と高いのを除けば、5～39歳の若い世代は1～2と少なく、事故遭遇率は50代で4～7人、60代で10～12人、70代で18～23人と年代とともに上がっていき、もっとも事故遭遇率の高い80～84歳では29人にもなります。

事故の内容は、96%が転倒・転落です。そのほか、挟まれ1%、衝突1%、引きずられ、飛来物・落下物などがあります。エスカレータ内の歩行が原因で起こった事故かどうかは必ずしも判然としませんが、高齢者の多くがエスカレータ内の歩行に危ないと感じています。日本エレベータ協会が実施したアンケートに回答した65歳以上の高齢者435人のうち、エスカレータの歩行が「危ないと思う」のは268人（62%）で、「危ないと思わない」141人（32%）の2倍に当たります。

やさしい社会のエスカレータマナーってなに？

多くの人たちが安全に安心してエスカレータを利用するにはどうすればよいのでしょうか。当然のように歩く人のために片側を空けているエスカレータにおける現代社会のマナーは、障害や病気などが理由で利き腕が限られているひとや、エスカレータでの転倒リスクのたかい高齢者、妊産婦、小さな子どもたちにとっては、危険なことがあるのです。手荷物にエスカレータ歩行者が当たり、両方が危ない目にあう危険もあります。

エスカレータは、現代社会において大きな役割を果たしていますが、今一度、やさしい社会のあり方として、利用する皆様ひとりひとりがエスカレータ内の歩行について考えていただき、すべてのひとにやさしいまちが実現することを望みます。

また、このことについてご賛同、ご意見がございましたら下記まで頂ければ幸いです。

平成 21 年 5 月 20 日

東京都身体障害者団体連合会 会長

ひとにやさしいまちづくりを進める大田区民の会 会長

〒146-0093 東京都大田区矢口 1-14-9

宮澤 勇

TEL/FAX 3759-4921 携帯 090-4918-4086

Eメール dia-miya1363@paw.hi-ho.ne.jp

ブログ : <http://blog.goo.ne.jp/machioota/>